

がんばろう！東北

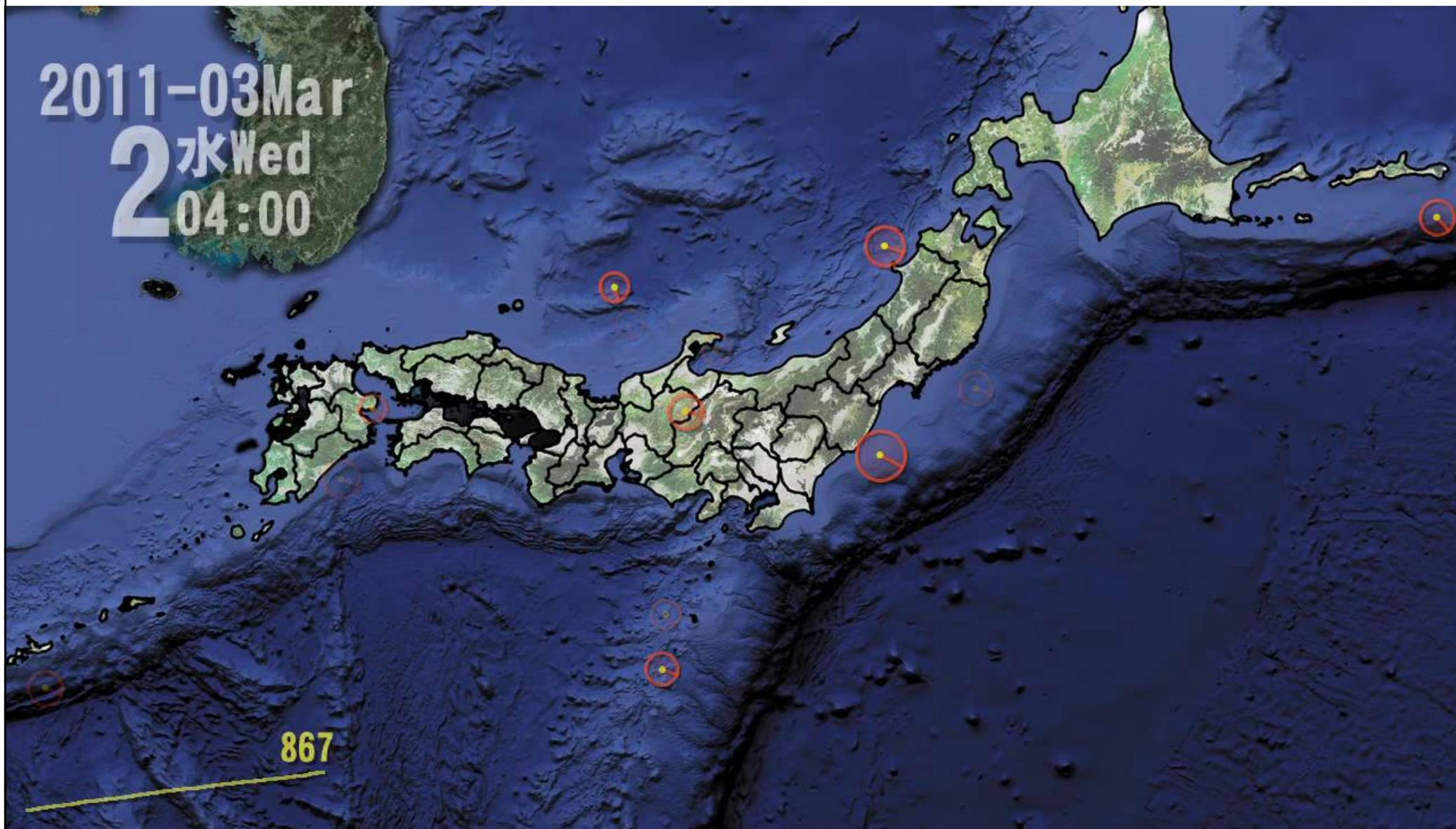
「東日本大震災」 復興に向かって

～ 一歩ずつ前へ ～



平成24年 3月 7日
東北地方整備局

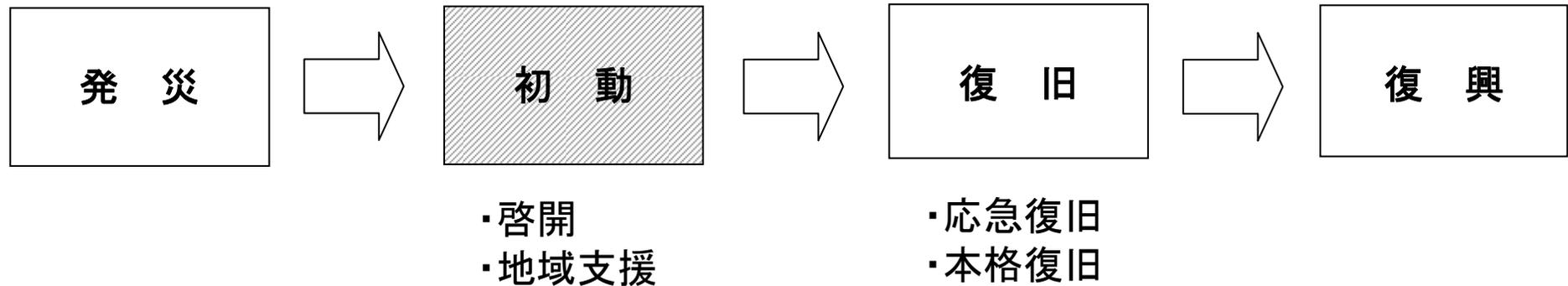
【参考】 東北地方太平洋沖地震 本震・余震発生動画



地震発生からの流れ

○救援ルートを確保する『啓開』と、事後の『復興』を追加。

○沿岸地域が大被害を受け、『地域支援』も本格的に実施。



災害対策室(3/11 夜)



災害対策室(3/11 夜)



発災直後(3/11) 職員全員に指示(メモ)

2/70

15:15 緊急災害対策本部

全員に指示

14:46
~~14:46~~ 発生

1. 被害確認 } ・局・事務所 安全。
 } ・施設

2. メディア対応窓口 ~~新築対策室~~ 企画部長

3. 本省対応窓口 } 防火課 — 企画部長
 } 各局 — 担当部長

4. メッセージ確定 非常

① 体制 14:46分 〇 体制に入る 15:28
(みちのく号 準備中) ~~緊急対策室~~ ~~15:28~~

② 斉会 — 小破はあや、業に支障なし
・ ~~平会~~ (軽微程度)

④ 許定の手順 10:2. ~~各平会~~
当面被害の程度に
より 情報収集 に着手し、

⑤ リエゾン } 福島 2名 青森 2
 } 岩手 2名
 } 宮城 4名

③ 全平会 (マイクによる) 連絡確保

東北地方整備局

① ぐん

整備局長直筆メモ※①

3月11日 15:15

・発災直後に書かれ、地震から30分後の午後3時15分に全職員にマイクで指示した際の本人手持ちのメモです。

・被害に関する情報収集を急ぐこととあわせて、情報の発信について混乱しないよう窓口の一元化を指示しています。また、この時点で、被害の程度についての情報収集に着手していること、4県にリエゾン（連絡員）を送ったことが書かれています。

・中程に、防災ヘリ「みちのく号」を仙台空港から離陸させるために苦悩している跡が残っています。

※複写

ビデオ放映中 コメント(1/13)

国土交通省防災ヘリ 「みちのく号」からの空撮映像



▲東北地方整備局の専用ヘリ「みちのく号」

ビデオ放映中 コメント(2/13)



15:23 仙台空港 離陸

ビデオ放映中 コメント(3/13)

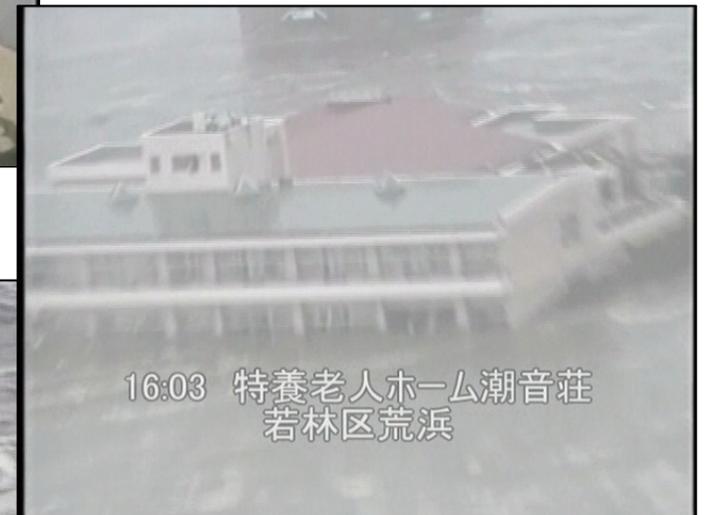


15:50 仙台市街地 渋滞状況

ビデオ放映中 コメント(4/13)



ビデオ放映中 コメント(5/13)



ビデオ放映中 コメント(6/13)



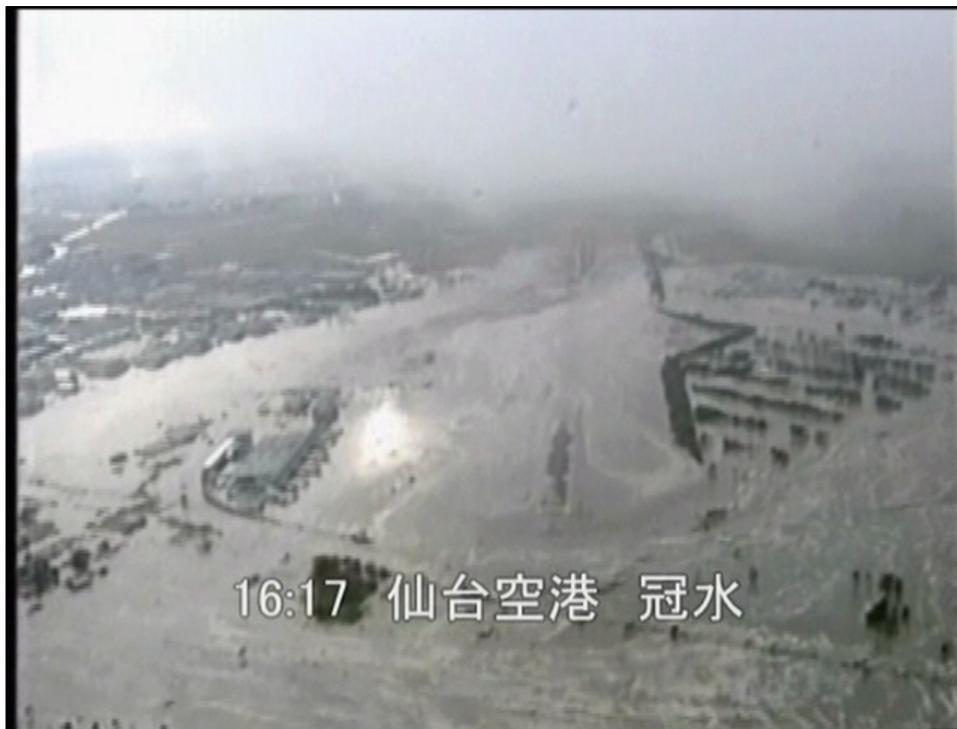
16:11 仙台東部道路
仙台若林JCT

ビデオ放映中 コメント(7/13)



16:11 名取市閑上

ビデオ放映中 コメント(8/13)



ビデオ放映中 コメント(9/13)



ビデオ放映中 コメント(10/13)

釜石港湾事務所屋上からの
津波映像



15:22 家屋流出



ビデオ放映中 コメント(11/13)

CCTVによる連続画像
(岩手県)



宮古市新川町 市役所付近

ビデオ放映中 コメント(12/13)



宮古市田老字西向山

R45 276.39kp

ビデオ放映中 コメント(13/13)



下閉伊郡山田町大沢
R45大沢(241.8K)上り

気仙沼国道維持出張所の被災状況



発災当日(3/11) 19:00の状況(メモ)

メモ 19:00

① 局・事務所状況 中・福島県庁

- ・ 社内停電、電話不通 断続的に余震。
- ・ 局一自家発電、マイク、システム
- ・ 車中泊 ~~中~~ 福島県庁 3事務所 + 出張
- ・ ~~中~~ but 釜石港湾 2F 浸水
- ・ 出張所 ~~中~~ 浸水
- ・ 取組 ~~中~~ 85%

② 点検状況 東北の連絡

- ・ 宮城 東北道 80% 救援ルート確保
- ・ 道 25% 600km 以上
- ・ 河 15% 200km 以上 砂防栗駒峠

③ 点検

太平洋岸 a 津波浸水区域は

点検に入らぬ状況 中・中

港湾、河川堤防、砂防

緊急点検

(下流)

阪神淡路 高速心程なし

④ 対応一意見具申

明日から勝負 支援 建築 Tec (F) 照明車

東北地方整備局

点検、復旧 緊急路

救援ルート 堤防、砂防、港湾

整備局長直筆メモ※②

3月11日 19:00

・ 22:00からの大島国土交通大臣へのテレビ会議での報告の準備として、19:00から書き始めたメモです。

・ 3事務所と1出張所が、津波による浸水のため連絡が取れないことや、職員の安否確認も85%にとどまっていること、家族の安否確認はほとんど出来ない様子が、情報が入る都度何度も書き直されている生々しいものです。

・ 最後に、大臣への意見具申として、阪神淡路の地震とは違う津波型であること、明日からが勝負であり、優先すべきは自治体への応援と救援ルートの確保であると進言しています。

※複写

大畠国土交通大臣とのテレビ会議



翌日の対応方針(メモ)

7:00 = 大臣報告
↑
口頭
2011.3.12
0:15

3月12日の対応

- (前提) ・太平洋沿岸に大被害を生じている
・最悪を想定に準備V.F.
↳ 市街地を避けて、道路上に障害物も積
港湾施設に被害+浮遊物、死者。

1. 情報収集

- (1) 夜明けから、A1におき情報収集
沿岸を中心、4機を分担調整
(2) 津波警報解除後の点検準備(港、河、砂)

2. 救援・輸送ルート

- (1) 内陸の道路ルート啓開 + 業者・機材確保
(2) 港湾の利用可能性判断 + 船舶の移動
(和成)

3. 県・自治体の支援 ^{ex. 福島県庁}

- 青森、岩手、宮城、福島の4県
- 従来のリエゾン以上の判断レベルの
各県担当責任者を特定
- 何か不足している、何をやるのか
^{ex. 通信、映像、照明、給水車}
- 市町村へも派遣できる者を選抜済
^{ex. 釜石、宮古、大船渡、相馬、気仙沼}
随時追加

整備局長直筆メモ※③

3月11日 23:33

・国土交通大臣の了解を得て、3月12日の対応を指示した命令書です。まず23:33にマイクで全員に指示した後、配布するために0:15に書き直したものです。

・今回の整備局の初動のポイントである「救援・輸送ルート」確保と「県・自治体の応援」という2項目がこの時点ではっきりと示されています。

・中程に、「啓開」の文字が初めて示されているほか、「業者・機材確保」をどれだけやれるかが死命を制すると指示しています。また、市町村へのリエゾン派遣も要員を選抜済と書かれています。

「くしの歯」作戦

第1ステップ 東北道、国道4号の**縦軸ライン確保**

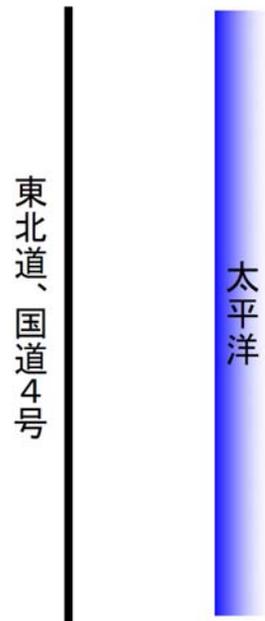
第2ステップ 東北道、国道4号からの**横軸ラインを確保**

3/12: 16本のうち、11ルート啓開

3/15: 15ルート啓開

第3ステップ 3/18: 国道45号、6号の97%啓開(作戦終了)

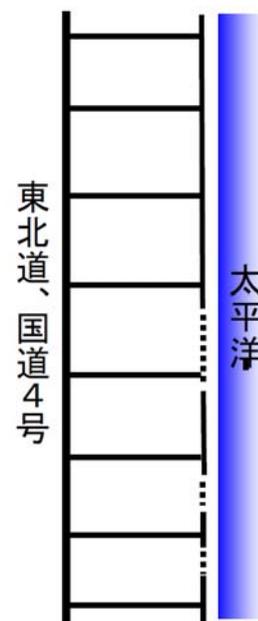
<第1ステップ>



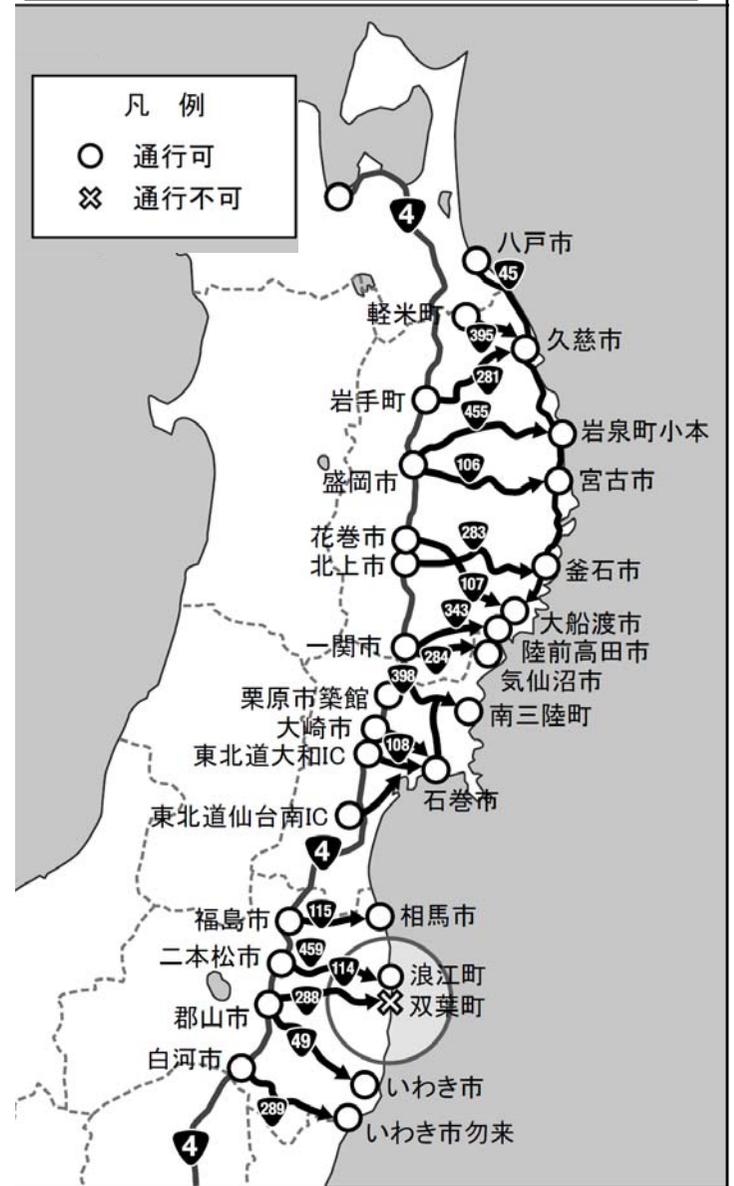
<第2ステップ>



<第3ステップ>



くしの歯作戦図



道路啓開



りくぜんたかた
・津波により災害を受けた岩手県陸前高田市内

道路啓開



りくぜんたかた

・津波により災害を受けた岩手県陸前高田市内の道路啓開状況

道路啓開

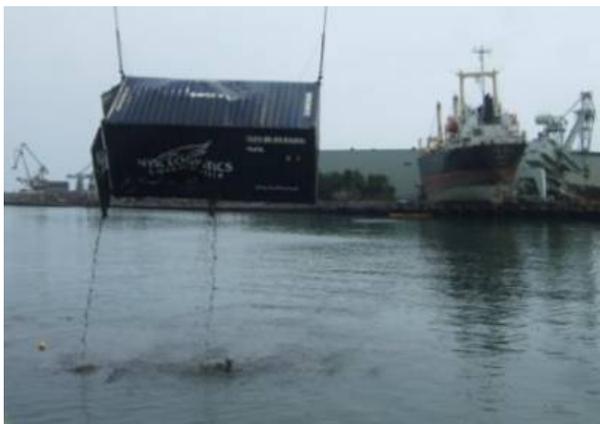


たがじょう
・国道45号(宮城県内)の啓開作業中(多賀城市市街地を撮影)

港湾における航路啓開

3/23までに、太平洋側の10港全てで、緊急支援物資受入れが可能。

航路啓開状況



▲仙台塩釜港 沈んだコンテナの引き上げ除去



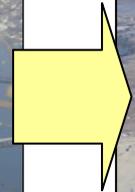
▲仙台塩釜港 沈んだ自動車の引き上げ除去



▲石巻港 流出した木材の除去

仙台空港“再生”

- 仙台空港など、海岸周辺の広いエリアで浸水。
- 排水ポンプ車を集中投入。総排水量 約500万m³、25mプール14,000杯分。
- 仙台空港復旧・再開(4/13)に寄与。



3/17より排水開始

緊急復旧(河川)



いしのまき かまや
・道路兼用堤防で交通路を確保(暫定1車線で供用)(北上川:宮城県石巻市釜谷地区)

陸・海・空路の啓開

- 陸路 ・災害協定に基づく**地元建設業等(全52チーム)の協力**により、**3/15までに横軸ライン16本のうち15ルート啓開**。
- 海路 ・**3/23までに、太平洋側の10港全て**で、緊急支援物資受入れが可能。
- 空路 ・「仙台空港“再生”」に向け、**排水ポンプ車を集中投入**。

道路の「啓開」が早い理由について

- ①橋梁の耐震補強対策により、被災が軽減。
- ②「くしの歯作戦」により、「16ルート」の「道路啓開」に集中。
- ③災害協定に基づく地元建設業等の協力。

地域支援

沿岸自治体が大被害を受けたことに対応し、以下の『地域支援』を実施。

1. TEC-FORCE（テックフォース・緊急災害対策派遣隊）
2. 災害対策機械
3. リエゾン（災害対策現地情報連絡員）
4. 支援物資調達

TEC-FORCE (テックフォース・緊急災害対策派遣隊)

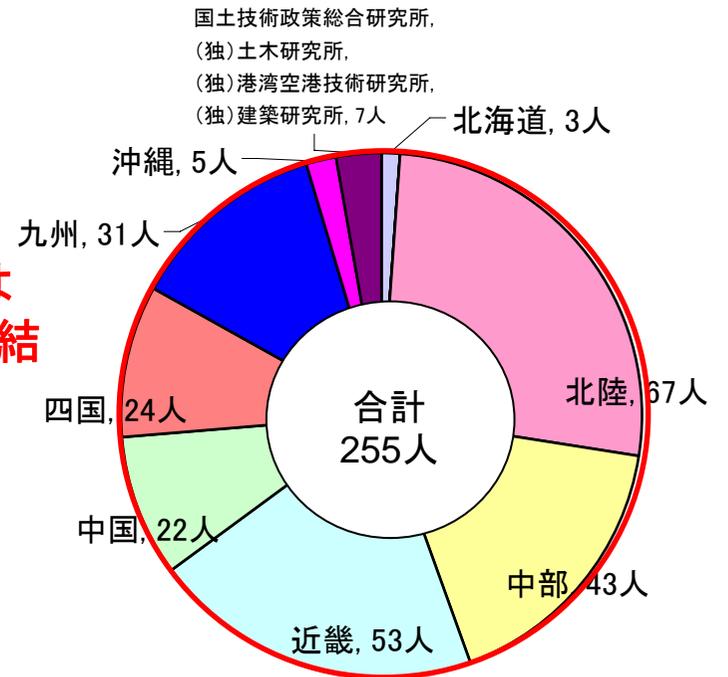
○発災翌日には、他地整から**8名の先遣隊**が到着。

○**3日目**からは、本省の指揮の下、**200名レベル**の東北地整以外の職員が被災状況を調査。



▲先遣隊への東北地整による状況説明(3/12)

ピーク時63班255人は
全て東北以外から集結



▲各地方整備局等の
TEC-FORCE派遣状況
(3/16時点)



▲TEC-FORCE出陣式(3/13)



▲近畿地方整備局TEC-FORCE

災害対策機械

■ 衛星電話



■ Ku-sat(小型衛星画像伝送装置)

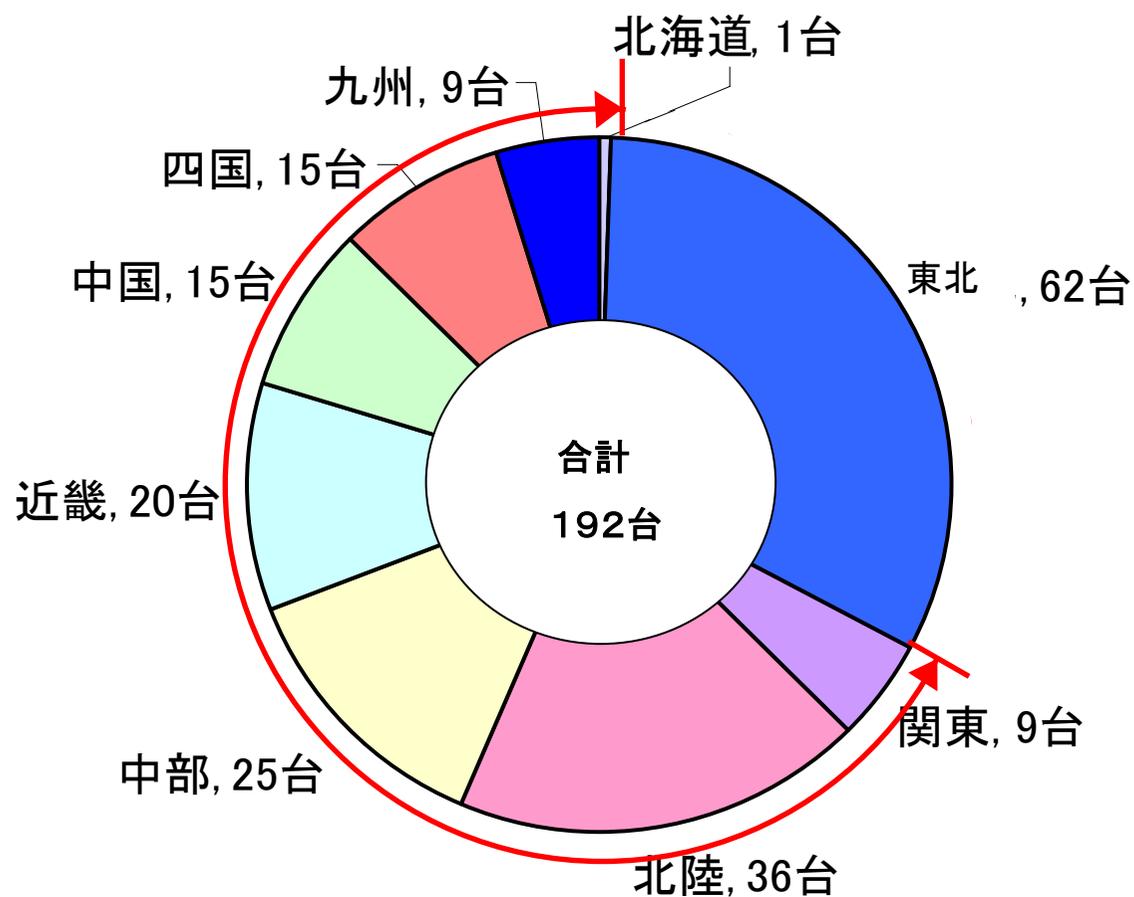


■ 各地から集結した災害対策車



災害対策機械

- 3/14までに16自治体と通信機器（衛星通信車、Ku-satなど）によるホットラインを設立。
- ピーク時、派遣した災害対策機械192台の約7割（130台）は東北以外の整備局より集結。



▲各地方整備局の災害対策機械の派遣状況(4月15日)

リエゾン（災害対策現地情報連絡員）

○発災当日より、4県（青森、岩手、宮城、福島）へリエゾン10名を派遣。

○3/23までに、**4県、31市町村へ派遣。**

○ピーク時（3/23）、リエゾン**96名の約6割が東北地整以外。**

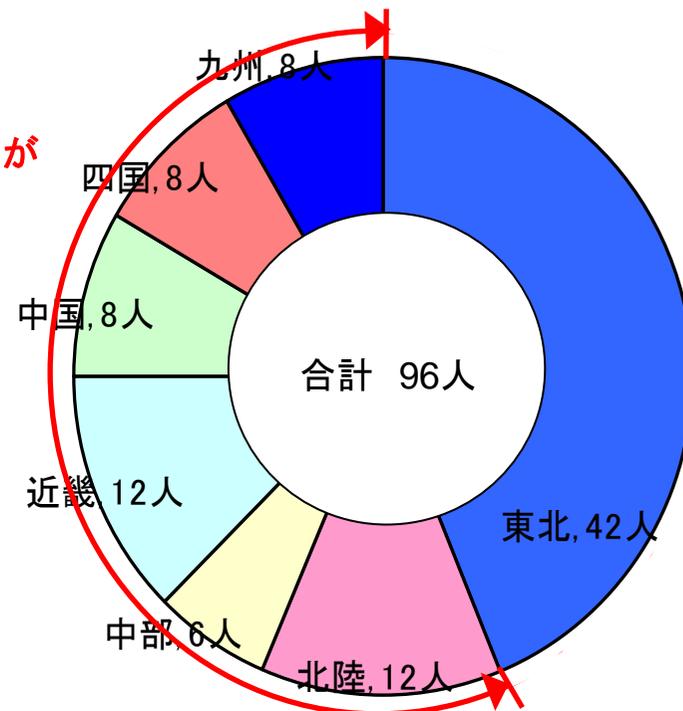


▲釜石市クリーンセンターの電源確保に向けた調査結果を釜石市長へ報告（九州地方整備局リエゾン）



▲タンク撤去のために現地で調整する国交省リエゾン（岩手河国）

ピーク時、約6割（54人）が東北地方以外より集結



▲各地方整備局のリエゾン派遣状況（3/23時点）

支援物資調達

○3/31までに、市町村から要望があった**支援物資218件**のうち、**約9割**を平均**約3日**で対応。

品目	総数量	要望件数	調達済件数
仮設ハウス	300 棟	12	8
カーペット	1,951 m2	2	0
断熱材	6,990 m2	2	0
仮設トイレ	1,039 基	11	11
テント	576 張	7	4
埋葬箱	100 本	1	1
収納袋	883 袋	2	2
ガソリン	11,000 L	4	4
軽油	36,740 L	17	17
灯油	56,400 L	8	8
発動発電機	95 基	9	9
バックホウ	6 台	2	2
水・茶	31,900 本	8	8
日用品・食料品等	1 式	22	22
生理用ナプキン	300 個	1	1
おむつ(子供用、大人用)	500 個	1	1
ふとん	300 組	1	1

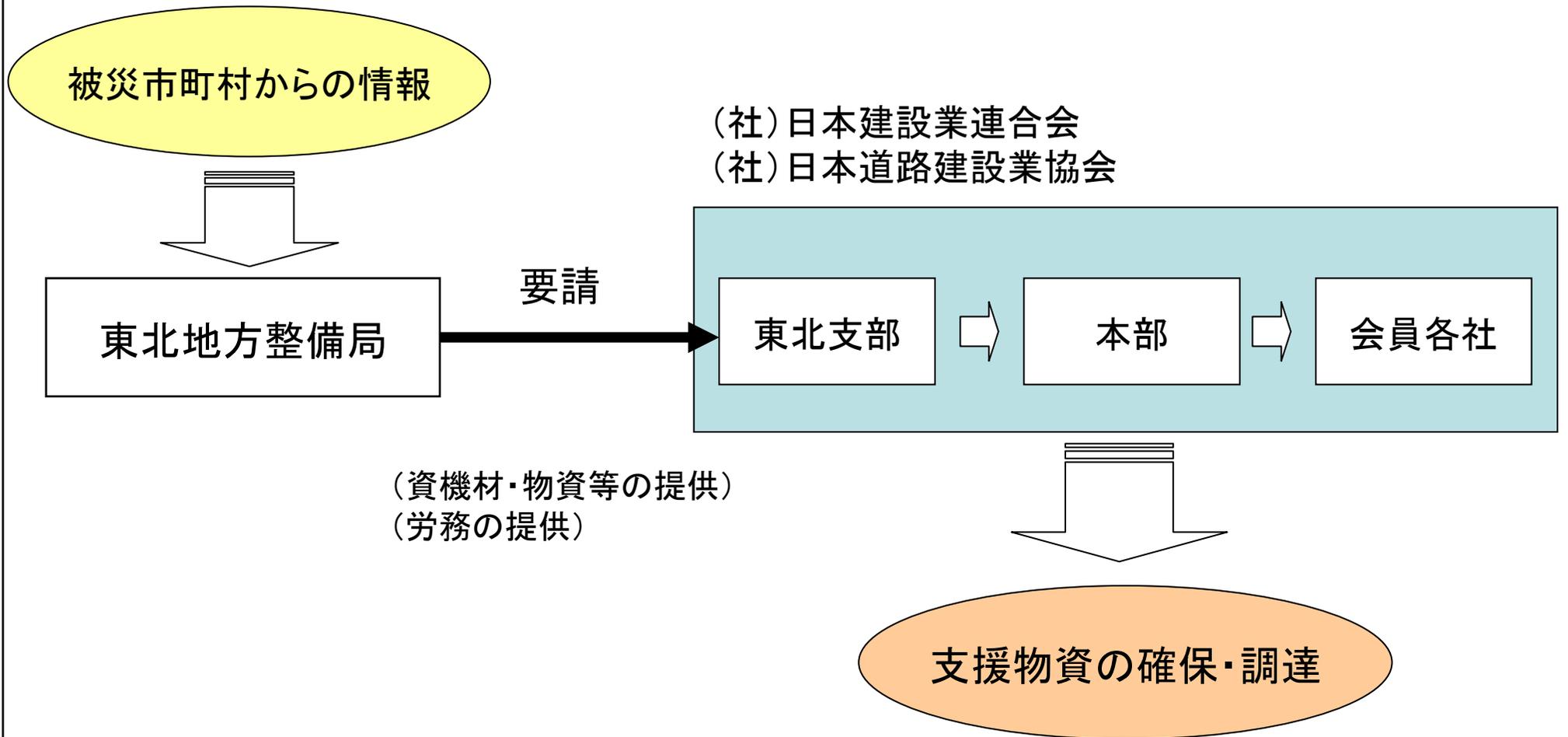
合計

218

198

建設業界の活躍(救援物資の調達・搬入)

- (社)日本建設業連合会、(社)日本道路建設業協会が支援物資の確保・調達
- 全国的な組織力、機動力を生かして、調達・搬入へ尽力



自治体の支援状況(岩手県一関市)

○陸前高田市、大船渡市、気仙沼市へ支援物資を提供

○陸前高田市、大船渡市、気仙沼市、南三陸町へ職員を派遣し、物資搬送、給水活動等を支援

など



▲被災地へ職員を派遣(一関市HPより)



▲全国から寄せられた支援物資をトラック積み込む職員(一関市HPより)

自治体の支援状況(岩手県平泉町)

○陸前高田市へ米、毛布、紙おむつなどの支援物資を提供

○陸前高田市へ公用車の提供(一関市と共同支援)

など



▲町民の方々による物資の仕分け作業(広報ひらいずみより)



▲陸前高田市を訪れ黙祷を捧げる様子(陸前高田市長、一関市長、平泉町長、藤沢町長)(一関市HPより)



▲一関市、平泉町が共同で陸前高田市へ公用車を提供(一関市HPより)

世界文化遺産「平泉」

- 平成23年6月に世界文化遺産登録が決定
- 平成23年7月に「東北復興平泉宣言」を発表
- 平成24年2月にユネスコより「平泉の文化遺産」の認定証授与



▲宣誓を読み上げる知事と文化財愛護少年団(岩手県HPより)

東北復興平泉宣言

平泉の文化遺産が、ユネスコ世界遺産に登録されました。平泉町、岩手県、そして東北の私たちにとって、大きな喜びであり、誇りです。

東北は、3月11日の東日本大震災津波によりとても大きな被害を受けました。日本全国、そして世界中から多くのご支援をいただいたことに対し、心から感謝いたします。

11世紀、東北では激しい戦乱があり、多くの命が犠牲となりました。奥州藤原氏の初代清衡公は、荒廃した国土を復興し、戦乱の無い平和な理想郷を実現するために、この地にこの世の浄土を創ろうとしました。こうして、平泉の文化遺産が築かれていきました。

仏教の考え方に基づいて造られた平泉は、素晴らしい寺院や庭園を残すとともに、あらゆる生命を尊び共に生きるという理念を私たちに伝えていきます。

私たちは、平泉の理念を胸に、東北の災害からの復興に取り組みます。そして、平泉の文化遺産を、将来にわたって守り伝えていくことを誓います。

平成23年7月3日
岩手県民を代表して 岩手県知事 達増 拓也

▲「東北復興平泉宣言」(岩手県HPより)



▲東北の元気を発信するため行われた「平泉福興祭」では気仙沼ホルモンの出店などに長蛇の列(広報ひらいずみより)

応急復旧(道路)



・津波により橋梁上部工が流出(岩手県陸前高田市気仙大橋)

応急復旧(道路)



・仮橋を架橋し、交通路を確保(宮城県陸前高田市気仙大橋)
りくぜんたかた けせんおおはし

緊急復旧(河川)



おおさきし ふくぬま

・江合川の緊急復旧状況(宮城県大崎市福沼地先)

緊急復旧(河川)



おおさきし ふくぬま
・江合川の緊急復旧完了状況(宮城県大崎市福沼地先)

緊急復旧(海岸)



かほさき

いわぬま

・仙台南部海岸蒲崎海岸の緊急復旧状況(宮城県岩沼市)

応急復旧(港湾)

被災直後

<4月18日撮影>



応急復旧後

<6月23日撮影>



仙台塩釜港(仙台港区)

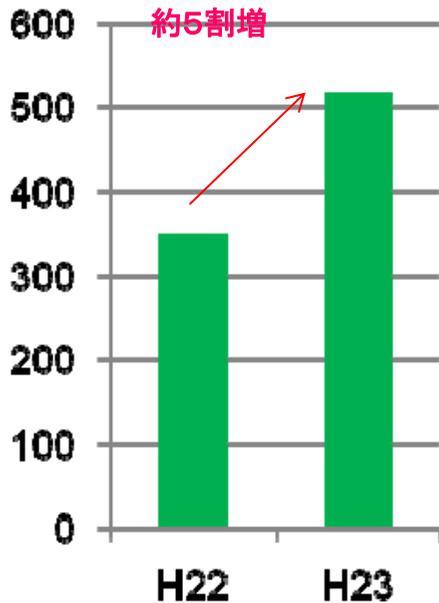
日本海側からの支援

○救援物資等の酒田港の取扱量が約**5割増加**。

○横軸の幹線道路(R113)の自動車交通量が**約2.3倍**

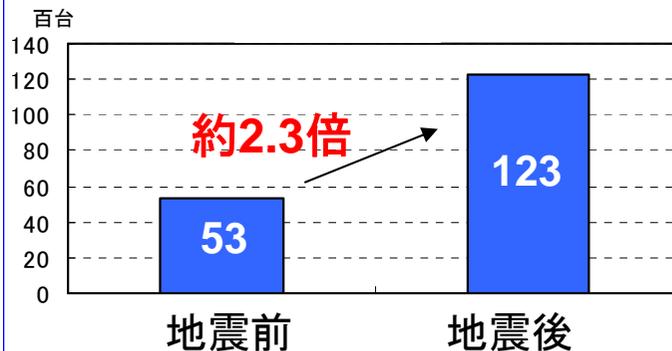
酒田港の総取扱貨物量 (3月～4月)

単位:千トン



※H23速報値を前年同時期と比較

国道113号(小国)の自動車交通量



※地震前:3/1～3/10、地震後:3/13～3/19



▲支援ルート確保(月山道路)



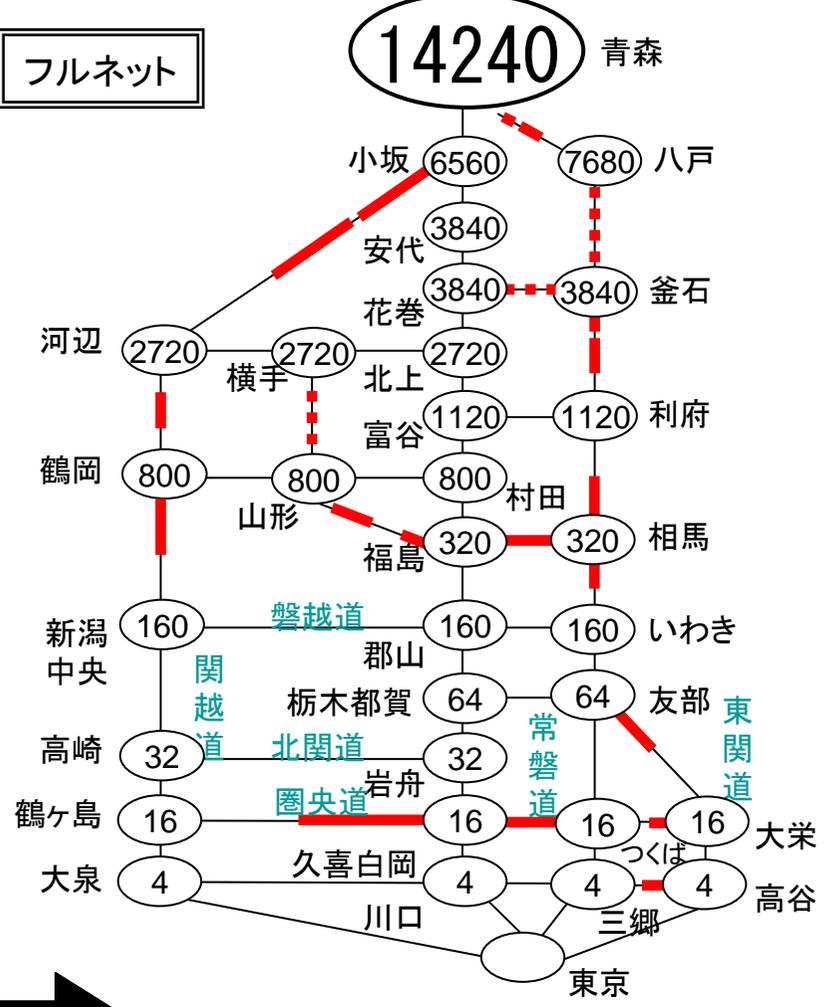
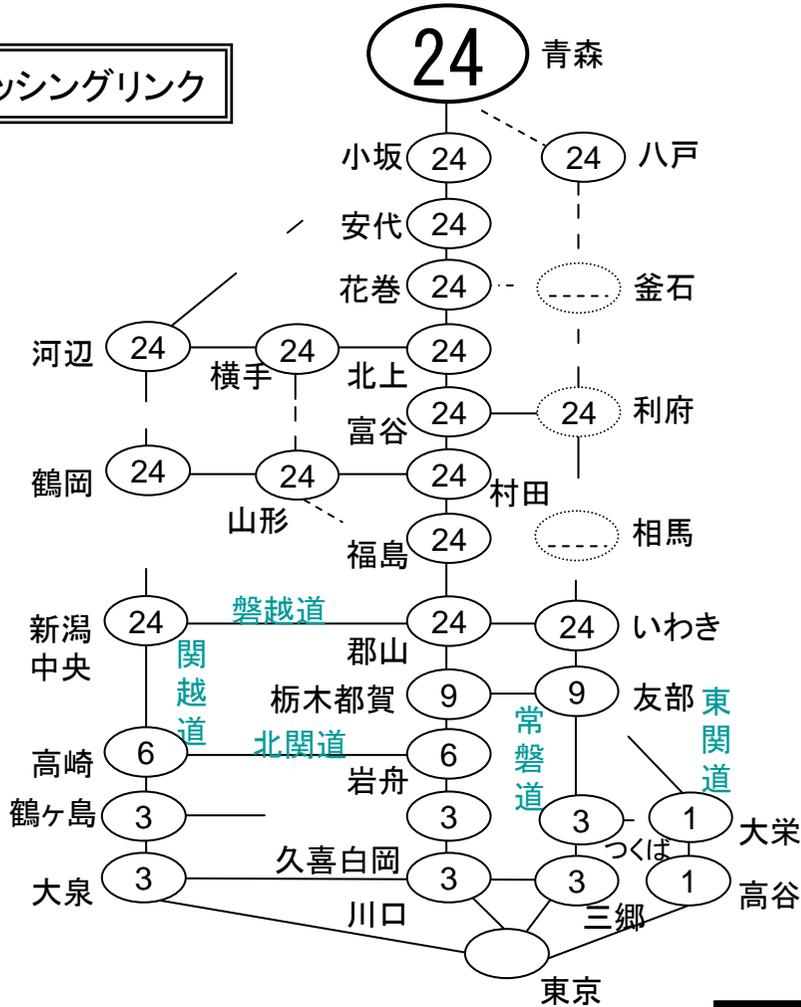
高速道路ネットワークの形成による東京・青森間の周遊ルートの飛躍的拡大

■現況(2011年3月末現在)

■14,000km整備時

ミッシングリンク

フルネット



(75%)
延長: 2523km
ルート数: 24ルート

ルート数593倍
延長+838km (25%増)

(100%)
延長: 3361km
ルート数: 14240ルート

注1) 東京から青森を高速道路により移動する場合のルートの数を示したものである。(宮古・久慈間の高規格道路を含む)なお、移動にあたっては、逆進をしない条件としている。また、経過地点のルート数は、東京から青森に至るルートのうち通過する数を示す
注2) 既供用路線には①暫定供用・A'路線供用等を含む ②首都高延長は含まない
注3) 供用延長には、東京-青森間を連続的に連絡しない区間は含まない

教訓・反省

1 組織の意思統一

○情報共有とフラットな指揮命令系統

2 抗堪性と通信の確保

○設備・庁舎運用が、防災拠点としての抗堪性を確保

○車両と運転手の不足

○光ケーブルの切断等によるリアルタイム現地画像の受信不能

3 関係機関との連携

○県・市町村、自衛隊、海上保安庁、NEXCO

4 全国組織

○全国各地の地整からTEC-FORCE、リエゾン、災害対策車を派遣

○燃料確保のための工夫(石油会社との災害協定等)

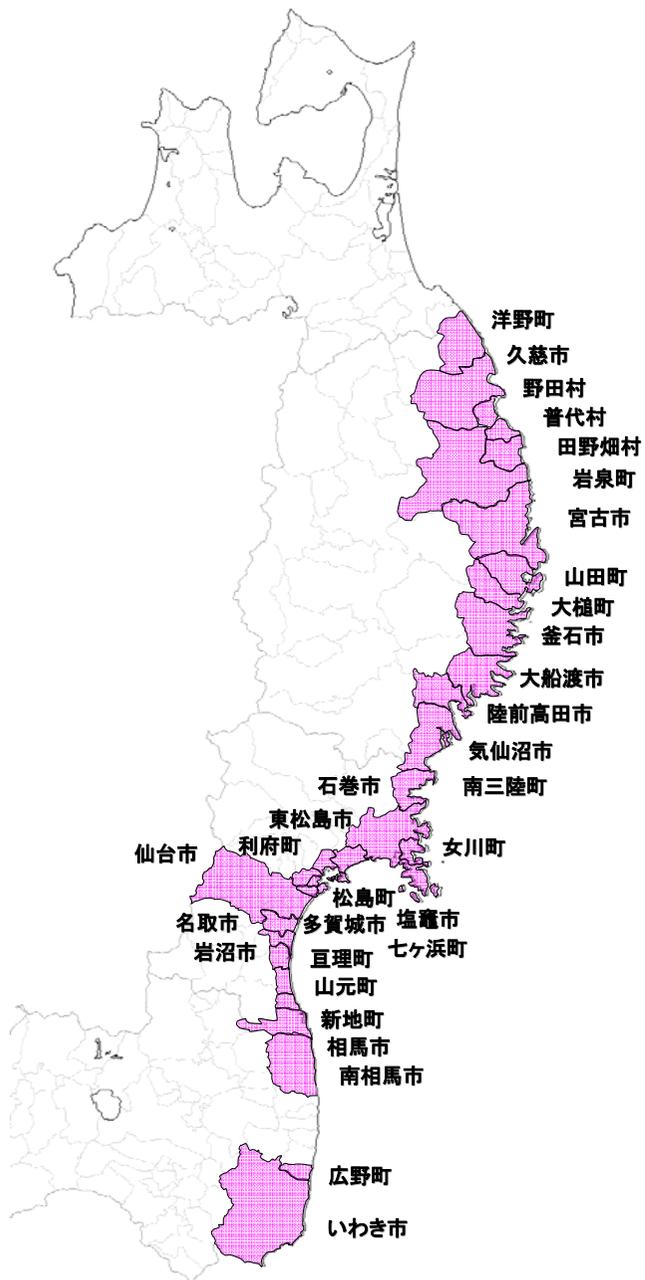
5 業界との連動

○『くしの歯作戦』実施にあたり、一夜で52チームを結成(地域の企業)

○日建連、道建協による支援物資の確保と調達 (全国的な機動力)

各市町村の復興計画策定状況

平成24年2月1日時点



	市町村名	決定(予定)日
岩手県	洋野町	7月28日
	久慈市	7月22日
	野田村	11月7日
	普代村	9月29日
	田野畑村	9月28日
	岩泉町	9月16日
	宮古市	10月31日
	山田町	12月22日
	大槌町	12月26日
	釜石市	12月22日
	大船渡市	10月31日
	陸前高田市	12月22日

	市町村名	決定(予定)日
宮城県	気仙沼市	10月7日
	南三陸町	12月26日
	女川町	9月15日
	石巻市	12月22日
	東松島市	12月26日
	松島町	12月28日
	利府町	12月26日
	塩竈市	12月2日
	七ヶ浜町	11月8日
	多賀城市	12月21日
	仙台市	11月30日
	名取市	10月11日
	岩沼市	8月7日
亘理町	12月16日	
山元町	12月26日	

	市町村名	決定(予定)日	市町村名	決定(予定)日
福島県	新地町	H24. 1月24日	大熊町	(H24. 3月)
	相馬市	8月30日	富岡町	(H24. 3月以降)
	南相馬市	12月21日	楢葉町	(H24. 3月)
	浪江町	(未定)	広野町	H24. 1月25日
	双葉町	(未定)	いわき市	12月26日

平成23年度予算の概要（直轄+補助）

○平成23年度予算総計は、当初予算比「約5倍」

当初予算
(2011年 4月 1日) 約 4,921億円

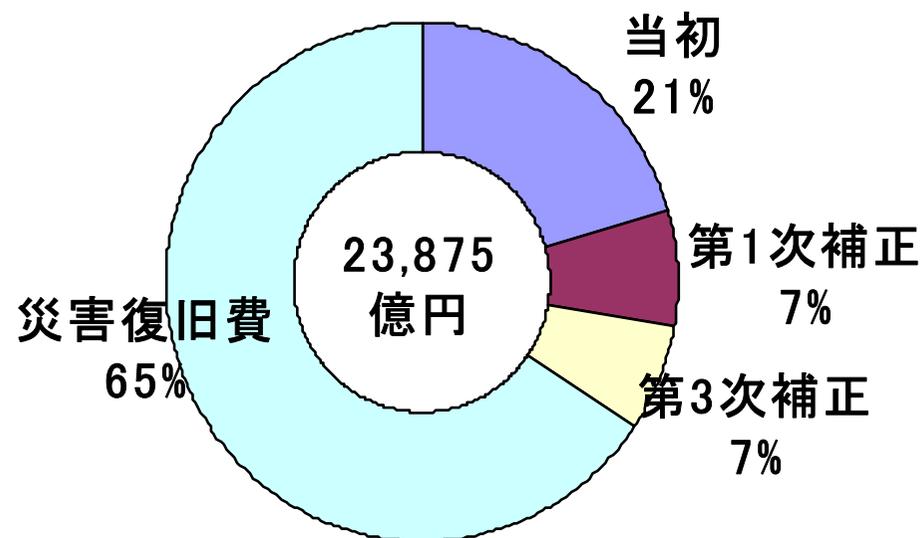
第1次補正予算
(2011年 5月 2日) 約 1,721億円

第3次補正予算
(2011年11月21日) 約 1,569億円

災害復旧費
(2012年 3月 1日) 約15,664億円

平成23年度予算
総計 約23,875億円

平成23年度予算(総計)



(※災害復旧費は、見込み額)

復興道路 復興支援道路



凡例

—	供用中
⋯	事業中
□	調査中
■	新規箇所
▨	4車線化箇所

宮古盛岡横断道路
(宮古～盛岡)100km

[新規区間48km]

東北横断自動車道釜石秋田線
(釜石～花巻)80km

[新規区間17km]

東北中央自動車道
(相馬～福島)45km

[新規区間11km]



八戸・久慈自動車道

三陸北縦貫道路

三陸縦貫自動車道

三陸沿岸道路
359 km

[新規区間
148 km]

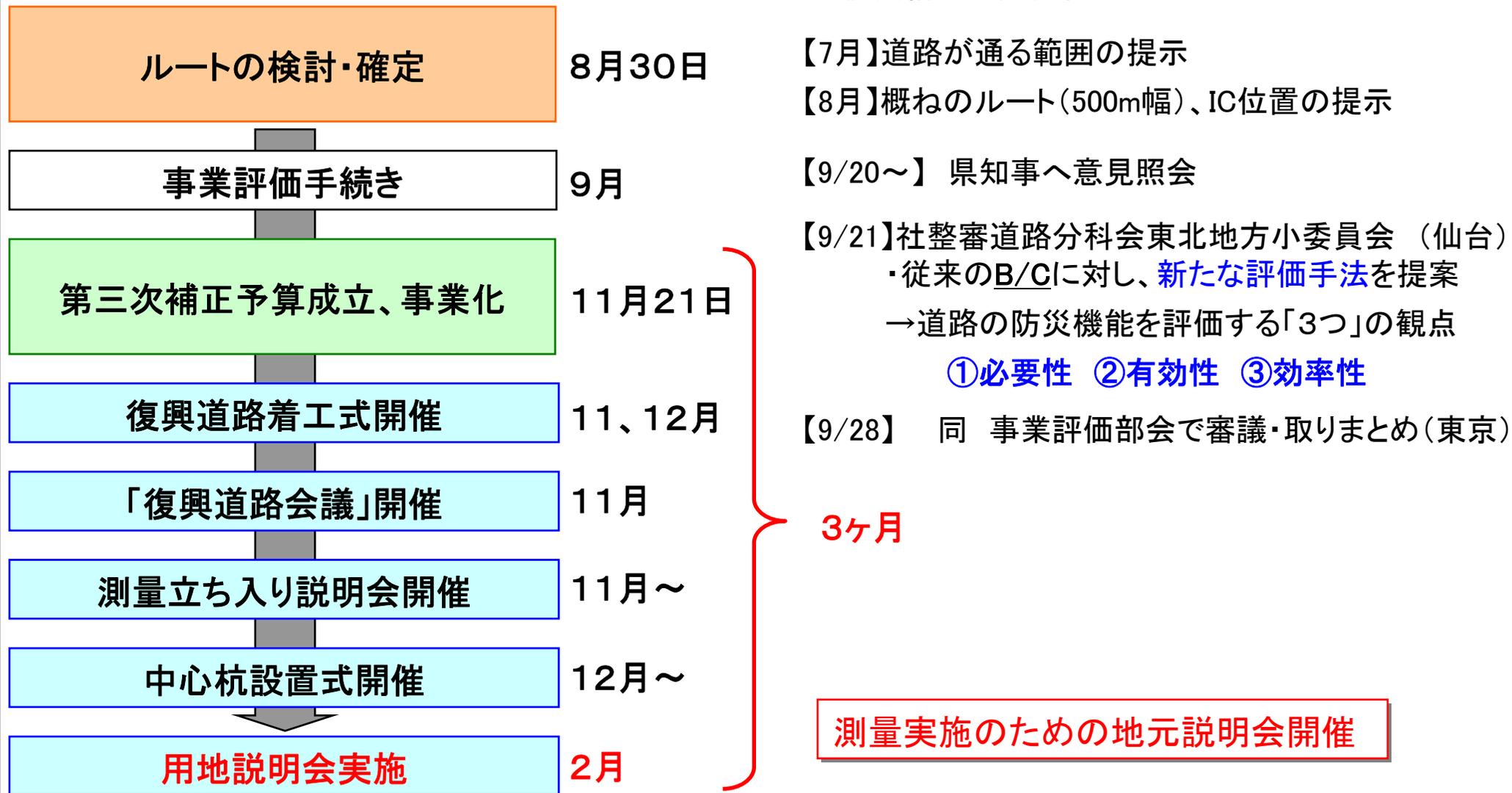
■ 第3次補正予算により、
三陸国道事務所の事業費は
従前の約**6.5倍**に

復興道路・復興支援道路
総延長 584km
新規区間 224km (38%)

復興に向けた動き(復興道路・復興支援道路)

- 復興へ向けたリーディングプロジェクトとして、早期の対応を実施。
- 通常2～3年程度要する用地説明会までの期間を「3ヶ月」で実施。

※復興構想会議提言など(6月)



復興に向けた動き(復興道路着工式)

◆復興道路着工式

宮城県(平成23年11月19日)



岩手県(平成23年11月20日)



◆「命の道バッジ」の贈呈



福島県(平成23年11月26日)



復興に向けた動き(復興道路会議)

◆復興道路会議

宮城県(平成23年11月25日)



岩手県(平成23年11月25日)



福島県(平成23年11月26日)



測量立入説明会・中心杭打設式

- 復興道路・復興支援道路の着工に向け、**測量立入説明会及び中心杭打設式を実施**
- 測量立入説明会にも首長さんが出席し、**復興に向けて地域一体で取り組んでいる**

測量立入説明会



▲11月27日(宮古市) 宮古中央～田老

中心杭設置式

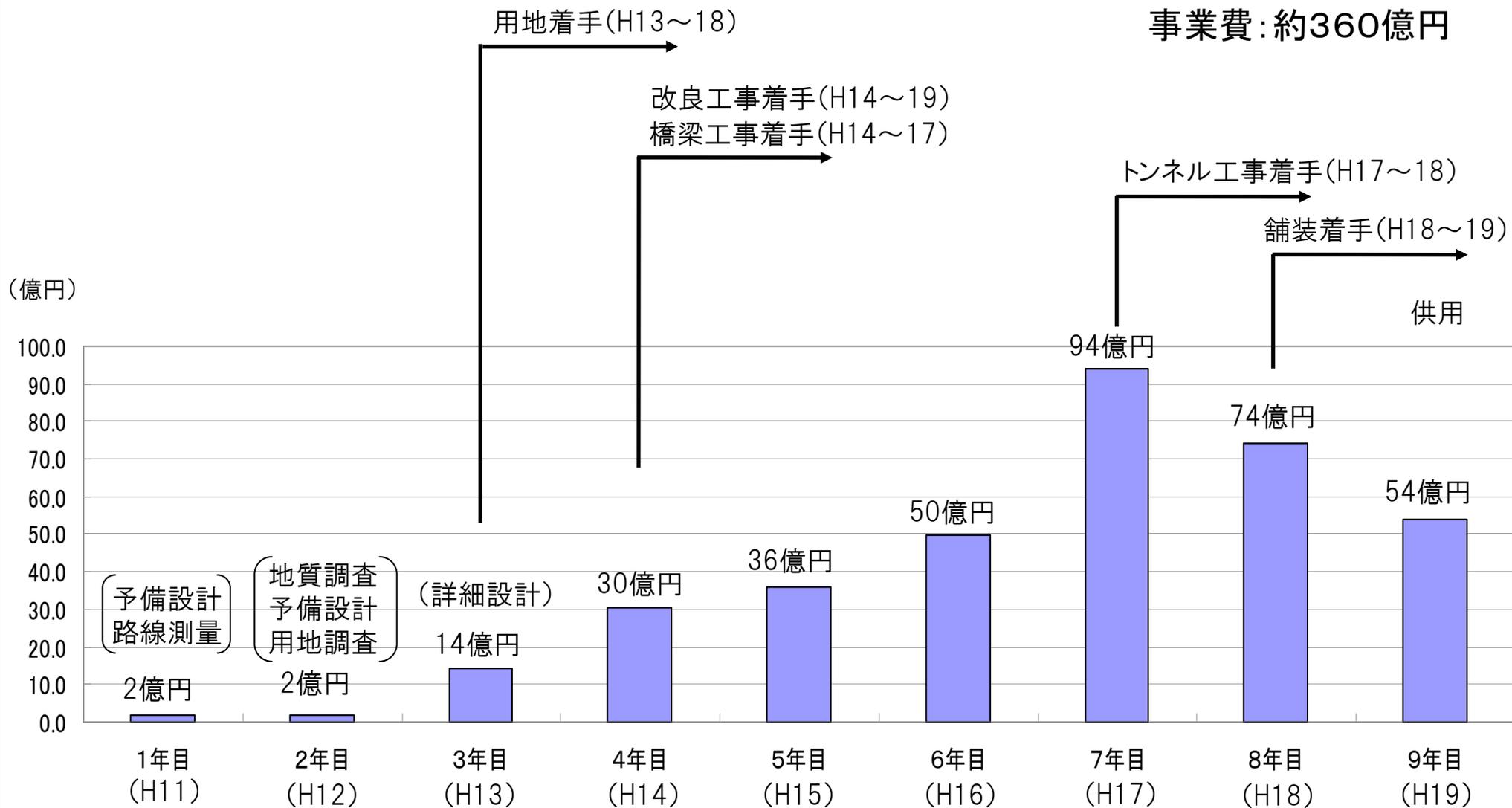


▲12月23日(宮古市) 宮古中央～田老

高規格幹線道路の事業パターン例

日本海沿岸東北自動車道 仁賀保本荘道路(にかほ市両前寺～本荘IC) L=11.2km

事業費:約360億円



海岸堤防高さの設定について

海岸堤防の高さの基準となる設計津波の水位の設定

一連の海岸や湾ごとに

- ・過去の津波の痕跡高さの記録の整理
- ・発生の可能性が高い地震等の津波シミュレーションの実施



数十年～百数十年の頻度で発生している津波を設計対象津波群として設定。

2011年 東北地方太平洋沖地震津波

<最大クラスの津波>

・住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で設定する津波

被災前の海岸堤防

XXXX年 ●●●●地震津波

####年 ▲▲▲▲地震津波

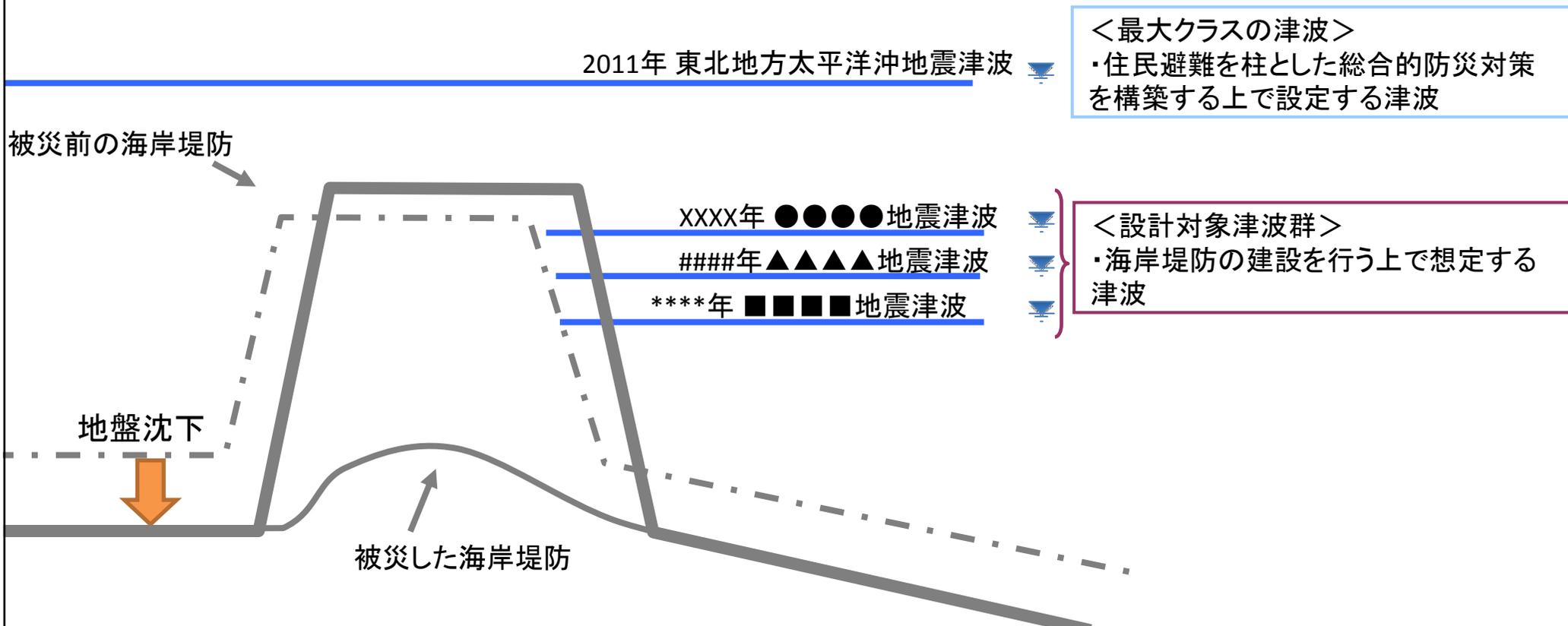
****年 ■■■■地震津波

<設計対象津波群>

・海岸堤防の建設を行う上で想定する津波

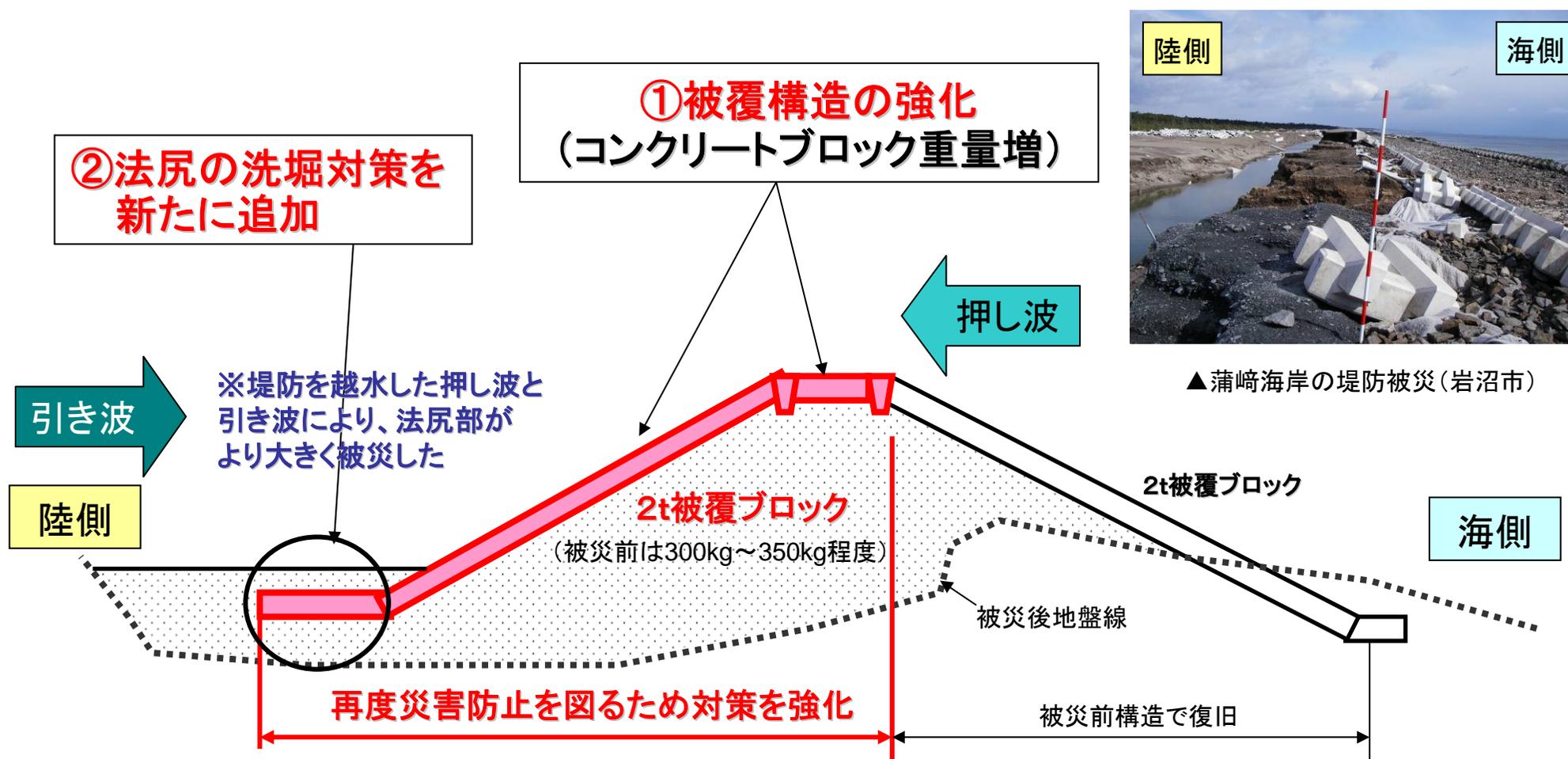
地盤沈下

被災した海岸堤防



仙台湾南部海岸の復旧(3面張り構造)

- 地震による変状に加え、津波越水により陸側の法面及び法尻付近が洗堀され被災拡大
- 復旧は「3面張り構造」とし、法面被覆を強化し、洗堀対策により補強

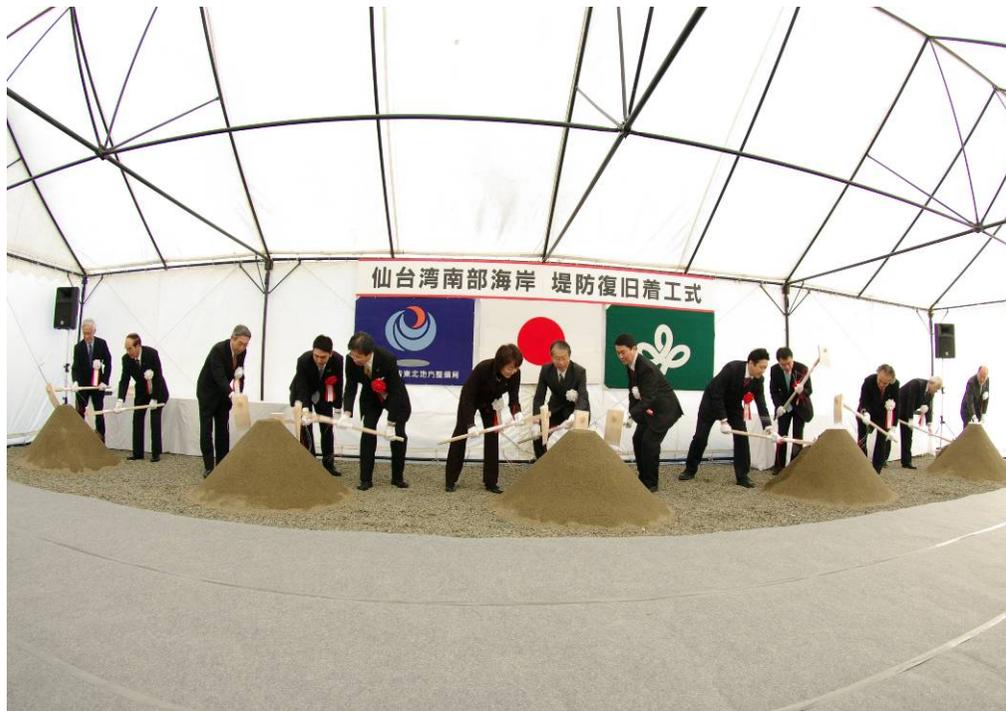


仙台湾南部海岸 堤防復旧着工式

- 仙台湾南部海岸において、**海岸堤防の復旧工事に向けた着工式を実施**
- 堤防復旧は、**宮城県沿岸5市町における復興の根幹**
- 各市町の**復興計画との整合を図り**工事を進める

(実施場所) 平成24年1月29日(土) 宮城県名取市下増田北釜地区

(実施主体) 宮城県、沿岸5市町村(仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町)、
東北地方整備局



▲鍬入れ式の様子



▲工事開始号令の様子

港湾の「産業・物流復興プラン」

○ 港湾機能の早期回復と災害に強い港湾づくりを目的とする「産業・物流復興プラン」策定

復興に向けた土地利用・輸送需要等の把握

各港設置の復興会議における検討

八戸港

久慈港

宮古港

釜石港

大船渡港

石巻港

仙台塩釜港

相馬港

小名浜港

市町村

県

港湾周辺企業

港湾利用者

東北地整

「産業・物流復興プラン」 ※各港、8月策定済み

- ①産業復興にあわせた港湾施設の復旧
- ②まちづくりや産業活動と連携した津波防災対策
- ③地域の復興に資する新たな取り組み

ハード・ソフト一体となった復旧・復興対策の推進

釜石港湾口防波堤 災害復旧事業着工式

- 釜石港において、湾口防波堤の復旧工事に向けた着工式を実施
- 設計を超える最大クラスの津波にも、減災効果を発揮する「粘り強い構造」を採用
- 湾口防波堤の復旧は、多重防災型まちづくりの基盤

(実施場所) 平成24年2月26日(日) 岩手県釜石市釜石港須賀地区公共埠頭

(実施主体) 岩手県、釜石市、東北地方整備局釜石港湾事務所



▲野田武則釜石市長のあいさつ



▲釜石港湾事務所による被災状況・復旧内容の説明

復興事業推進のための対策

○「復興道路」を約10年間で供用するための総合的な対策を実施

(※)PPP:Public Private Partnership

1. 合意形成

- ・国と地域が一体となった事業推進(復興道路会議)
- ・進捗状況の積極的公表等

2. 事業執行体制の強化

- ・地整内、全国からの応援部隊投入【道路事業へ44名】(総勢95名)
- ・新規事業化区間への「**事業促進PPP(※)**」の導入
- ・関係機関の協力強化(用地取得、埋蔵文化財など)等

3. 入札・契約の工夫

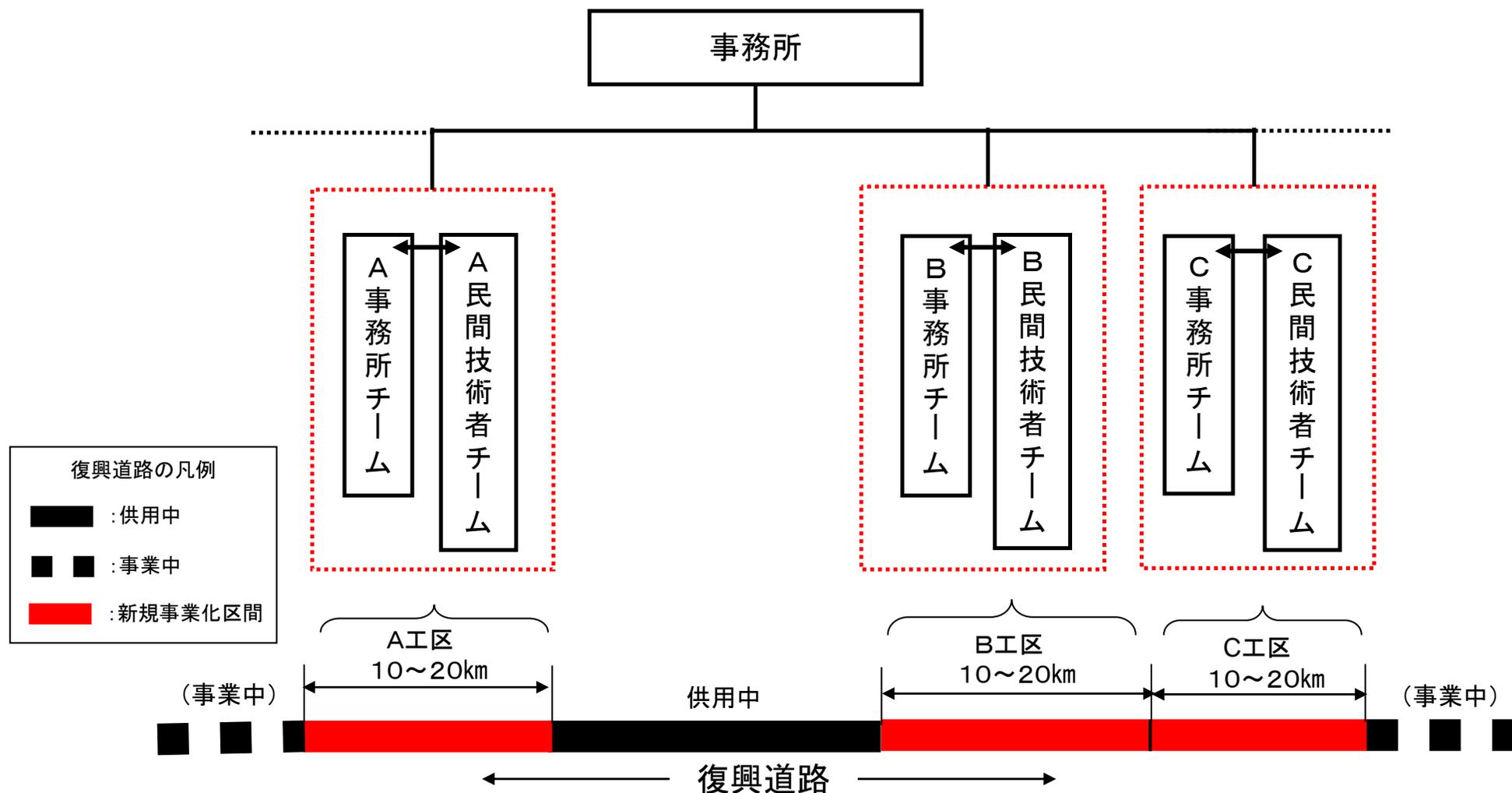
- ・手続きの簡素化
総合評価の簡略化(技術提案数の減)、期間の短縮(土日含)
- ・発注ロットの大型化
トンネル工事、橋梁上下部工工事、舗装工事の大型化
- ・復興JV制度の創設
被災3県の企業と被災地域外の企業との共同企業体

4. 事業環境の整備

- ・発注者間および発注者と業界、資材生産側との密接な連絡調整
- ・労務費・資材の高騰に対応する単価改訂と請負代金額の変更

(事業促進PPP) 復興道路事業の推進体制

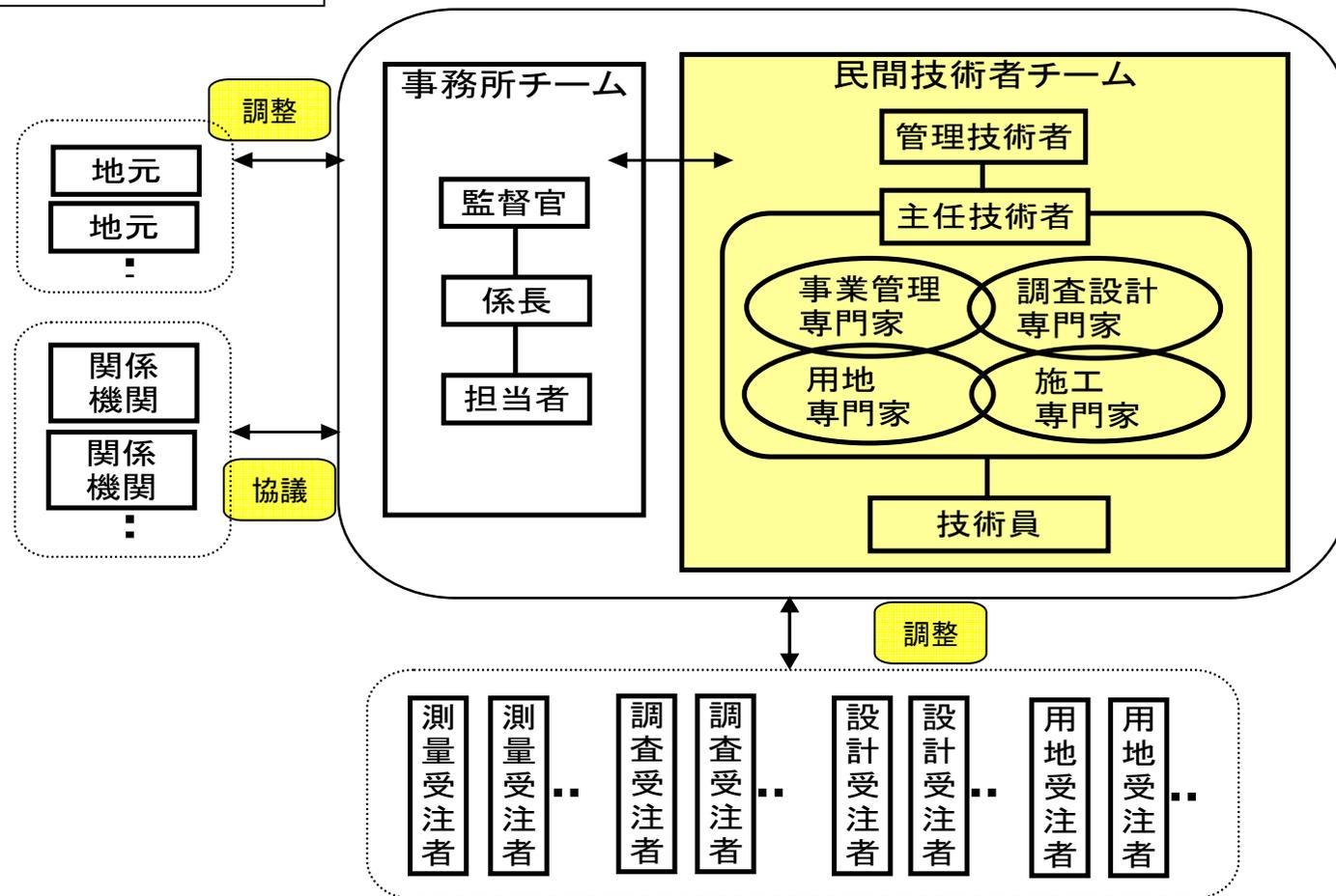
- 新規事業区間を約10~20km毎に工区分けし、工区毎に民間技術者チームを配置
- 民間技術者チームは、事務所チームと連携し、業務を実施



(事業促進PPP) 民間技術者チームの構成

- 「事業管理」、「調査・設計」、「用地」、「施工」等の**エキスパート**で構成
- それぞれが**連携**して、全体の最適な進め方を検討・実施

「事業促進PPP」導入後の事業体制



事業促進PPPのポイント

(ポイント)

1. 事業の川上のマネジメントに**初めて民間を活用**

(工事着手前の測量、調査、設計、用地取得 等)

2. 多様な**知識・経験の集約により効率的に事業を促進**

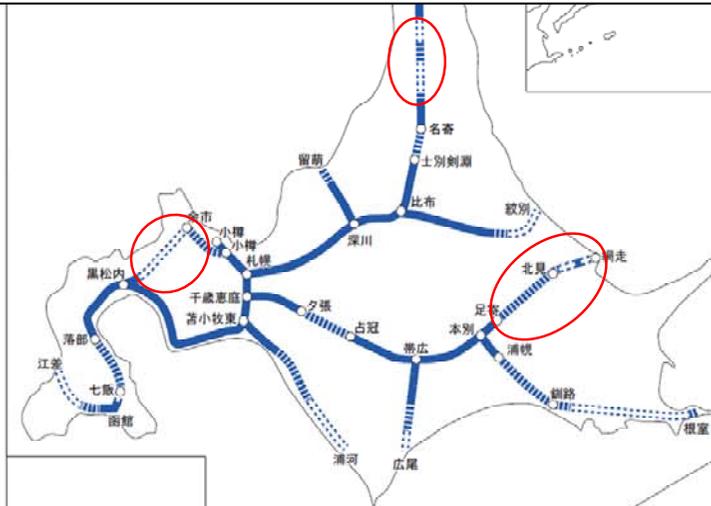
(直轄技術者と民間エキスパートが協力)

3. **官民一体の専任チームが現地に常駐し、地域を重視して事業を実施**

高速道路・国道のミッシングリンク

■ 高速道路や国道のミッシングリンクが多数存在
 → 耐災性を高めるネットワークの早期確保が必要

高速道路のあり方検討有識者委員会
 中間とりまとめ(2011年12月9日)より



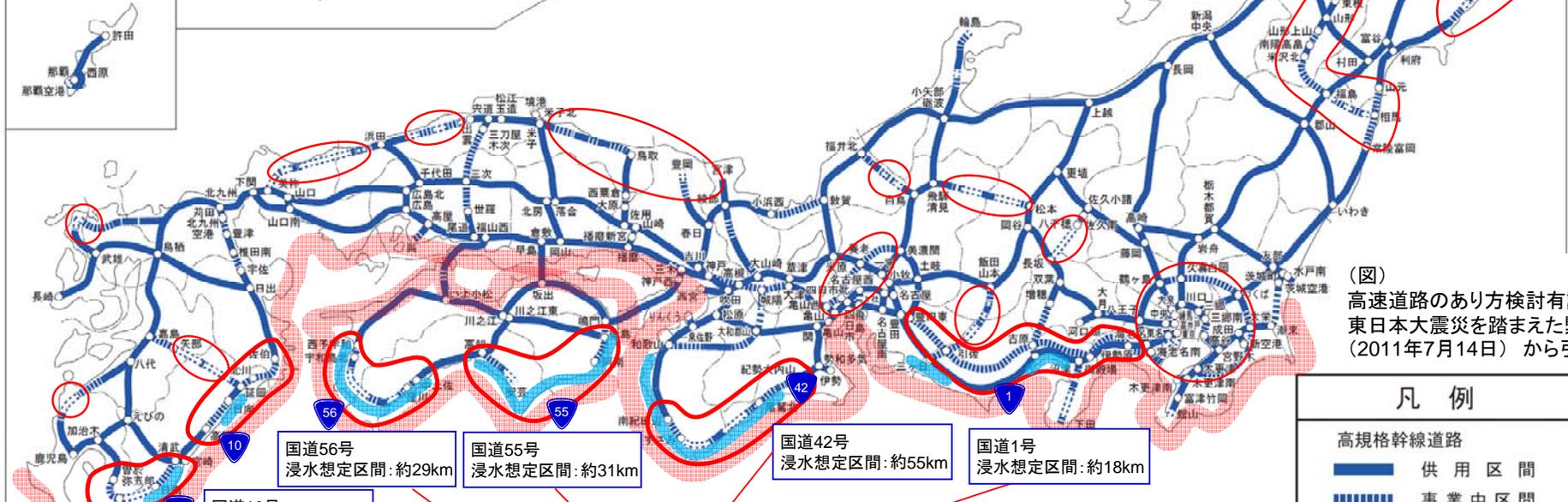
	総延長 (km)	供用延長 (km)	進捗率 (%)
高規格幹線道路	約14,000	9,855	70

H23.4.1現在

東海・東南海・南海地震時に想定されている津波影響範囲
 (平成15年12月中央防災会議「東南海、南海地震に関する報告」)

東海、東南海、南海地震時に津波浸水が想定される主な国道

ミッシングリンクが残る主な区間



(図) 高速道路のあり方検討有識者委員会
 東日本大震災を踏まえた緊急提言
 (2011年7月14日) から引用

凡例	
高規格幹線道路	
供用区間	■
事業中区間	▨
未事業区間	⋯

国道220号
 浸水想定区間: 約4km

国道10号
 浸水想定区間: 約4km

国道56号
 浸水想定区間: 約29km

国道55号
 浸水想定区間: 約31km

国道42号
 浸水想定区間: 約55km

国道1号
 浸水想定区間: 約18km

東海・東南海・南海地震の津波影響範囲のミッシングリンクが残る主な区間と
 浸水が想定される主な国道